
ある日の屋上より～私と彼～

緑僧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある日の屋上より〜私と彼〜

【Nコード】

N6979B

【作者名】

緑僧

【あらすじ】

ある日の屋上より〜僕と生徒会長〜の彼女視点です。

(前書き)

初の女の子視点です。
かなり苦勞しましたが文章がおかしい所があると思います

「ごめんなさい。」

この言葉をかけるのは何回目だろう。

もう相手を気遣う気持ちすらも無くなった。

私が想うのは彼だけだった。

いつも、私が告白される屋上にいつも居る彼、彼は毎日ここに來ていた。

いつからだろうか。彼を好きになったのは。今では姿を見るだけで心が安らぐ程になっていた。

だから私は屋上で告白されていた。彼の姿を見るために。そのためだけに私はここに来ていた。

悲しそうに去って行く男の背中を少し睨みつけた後、空を見上げる。彼と同じ空の下にいますと思うと幸せな気持ちになる。

しかし此処ですっと空を見ている訳にはいかない。小さなため息をつき扉に向かった。

「…であるからに…答えは…。」

先生が喋っている。しかし内容は聞き取れない。

聞く気が無いからだ。一応生徒会長の肩書きがある私は生徒の手本とならなければならぬらしい。実際私はずっとそう思って生きてきた。彼と会って私は変わった。話した事も無い彼が私を変えてく

れた。
くだらなく、
面白くなく、
見栄と
欲望の
色の
無い
世界から
私を救ってくれた。
今では色もついた。生きる意味も見つけた。そんな私の王子様は私
を知らないだろう。それでいいのだ…それで…

5 限目の終わりにあることに気が付いた。

雨

まだ降ってはいなかったが今にも降り出しそうだった。
いつもカバンに入れている傘を持って急いで向かう場所は
屋上

ガチャガチャ

ギ、ギギー

鈍い音をたてて開いたドアの隙間からそっと屋上を覗く。

寝ている彼が見えた。心が跳ねるとはこういうことなのだろう。そっと近づく私、心臓の音がやけに煩く感じた。彼に近づくにつれてさらに大きくなっていった。

彼の前に来た時とうとう雨が降り出した。私は慌てて傘を開き彼にさしかけた、全身を覆うことは出来なかったがこれで彼が風邪をひくことはなくなっただろう。とここで私の心が騒ぎ出した

彼の唇を奪え、と

幸い彼に起きる気配は無かったので私は心の言うことに従うことにした。

綺麗な顔立ちの彼の綺麗な唇。それを奪うのは大犯罪になるような気さえした。顔を近づけていく

今にも爆発しそうな心臓の鼓動がさらに強くなる

私の目にはもう彼の顔しか映らない

そして

彼と私の距離はゼロになる

長いような短いような時間の中、感じたのは
幸せ

彼からしたら迷惑かもしれ無かったが私には関係無かった。コレが彼のファーストキスだったら…

そっと離れた唇に残る感触。柔らかい彼の感触。彼はまだ起きなかった。欲望に任せてもう一度、もう一度、もう一度…

地面が動くような感覚に私は目を覚ました。どうやら眠ってしまっただけらしい。目をこすりながら顔をあげると

いたのは私の王子様、びっくりしたような彼の顔に真っ赤になる私、あのまま寝てしまっていたら良かった。寝ている所を見られた恥ずかしさと彼に間近で見つめられた嬉しさの板挟みになっている時彼が見せた笑顔に

私の恋は

叶う気がした

雨の上がった屋上の上

王子様が迎えに来てくれた気がした

(後書き)

感想をお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6979b/>

ある日の屋上より～私と彼～

2011年1月1日14時16分発行